



竹林

白河市立五箇中学校だより No. 46

発行 平成28年3月18日(金)

文責 校長 長 嶺 吉 浩



教育目標

自ら学ぶ意欲をもち、創造性に富み、社会の変化に対応できる知性豊かな生徒の育成

目指す生徒像

主体的に学び、確かな学力を身につける生徒(知)
広い視野をもち、思いやりのある生徒(徳)
心身ともに健康で、生き生きと生活できる生徒(体)

～第69回卒業証書授与式が行われました～

3月11日(金)午前10時より卒業証書授与式が行われ、卒業生15名が学舎を巣立っていきました。白河市教育委員会教育長職務代理者 藤田克彦様、市長公室長 川瀬忠男様、市議会議員様を始めたくさんのご来賓の皆様に出席いただき厳粛で感動のある式になりました。在校生を代表し佐藤 瑠さんが送る言葉を送り、卒業生代表の佐藤真衣さんが大変立派にお別れの言葉を述べました。終盤の式歌の合唱は感動を呼び、忘れられないものでした。



お別れの言葉 佐藤真衣さん



卒業証書授与

在校生の見送り

◇卒業式準備 ok! ◇

3月10日(木)は卒業式の式場準備を行いました。清掃のあと、紅白幕、ステージ、イス、机飾り付け、控え室、3年教室と手際よく、準備を進めました。先輩のためという気持ちがよくわかる働きぶりでした。



まずは体育館の床磨き!

～保健体育でコーディネーショントレーニング～

15日(火)徳島大学大学院総合科学部大学院から小野寛久先生にお越しいただいて保健体育の授業の中で、実際にトレーニングを行いました。1・2年生それぞれ2時間の授業は、簡単な動きで体と感覚を刺激し、調和させながら発達させる斬新なものでした。



背中を合わせて立つ



目を閉じてバランス

～田澤先生講演より ～過剰なメディア漬けは「後天性発達障害」を生じる～

先に「道具(環境)は人間の脳を変える」可能性をお話しましたが、その結果、何が起きるかです。「後天性の発達障害」、簡単に言えば、「大人になれない」という問題です。幼い時からテレビ、ビデオ、ゲームを1日4時間以上見て遊ぶ子どもを「ヘビー・ユーザー」と命名しています。その「ヘビー・ユーザー」は中学生になると「4人に1人」に後天性発達障害の問題が表面化することがわかっています。「ヘビー・ユーザー全員でない理由」の一つは、クラブ活動とか運動などの部活動をしている子どもは、前頭葉のリハビリ機能が背景にあるために、表面化しないためかもしれません。しかしその子どもも、すでにお話したように、中学3年の夏休み以降に、潜在する問題が表面化する危険性を抱えています。

子どもは「ゲームは楽しい」と言いますが、

笑顔で(にこにこしながら)遊んでいません。獣のような「興奮」した状態で、長い時間を浪費することは、脳によいわけはありません。そして中学生になると、「キレル、暴れる」性格が形成されます。携帯を笑顔で(にこにこしながら)いじっている子どもはいません。無表情なままです。そして携帯依存(中毒)者は、一見おとなしいが、キレル、暴れる、パニック障害などの神経症、あるいはいじめの加害者や被害者になりやすい性格が形成されます。パソコン、ネット依存者(中毒)はどうか。クールである程度の社会力はあるので、大人社会の中に滑り込んできますが、付き合ってみると何か変です。自己中心主義を振り回すわがままな性格が形成されます。ネット族の人たちは、自分に都合のいい情報を集めて自分のお城を固め、とんでもない価値観を作りあげています。

～合格おめでとうございます～

○漢字検定合格

3級 佐藤 瑠さん(2年生) 鈴木健人さん(1年生) 鈴木希海さん(1年生)
4級 井上滉介さん(1年生) 鈴木颯汰さん(1年生) 鈴木潤羽さん(1年生)

